

平成三十年十二月第五回人吉市議会定例会の開会に当たり、発言の機会をいただきましたことに心から厚くお礼申し上げます。

季節の風景やその時の出来事から感じたことを僅か十七字の中に感動を凝縮して詠う俳句には、必ず季節を表す言葉を詠み込むこととされていますが、近年、時代の流れに伴い小中学校において五月に開催されている運動会は、今も秋の風情を表す多くの季語の一つとして詠まれています。

その運動会、十月の毎週日曜日に各校区におきまして、市民体育祭が開催されました。天候にも恵まれ、どの会場も子供から高齢者まで幅広い年代の方々にスポーツに親しんでいたものだものと存じます。スポーツには、健康面などを含め数多くの魅力や効果がありますが、その一つが人々の心の一つにする力でございます。人口減少・少子高齢化が進む中、各校区、各町内におきましてもこれまでと異なる様々な課題に直面しているところではあります。今後、コミュニティをどう維持していくのかということについては、やはり住民の方々の力はもちろんのこと地域の結束力が不可欠でございます。現在、高齢者の方々が地域で健やかに暮らせる仕組みづくりを、中原校区で先進的に取り組んでおりますが、住民同士の支え合い、共生、住民が主役となる地域コミュニティを形成していく上で、校区単位の自治の在り方につきましても、今後、研究が必要であると感じているところでございます。

また、十月二十八日には、二つのイベントが盛大に開催されました。人吉城跡ふるさと歴史の広場を発着点とした「日本でもっとも豊かな隠れ里」サイクリング in ひとよし球磨におきましては、三つのサイクリングコースを設け、全国から集まった約七百五十人のサイクリング愛好家の方々が人吉球磨の豊かな自然の中を駆け抜けるとともに、湯前町に設けられた昼食会場では郷土料理を堪能していただくなど、人吉球磨の魅力と地域の方々との触れ合いを満喫していただいたものと存じます。

一方、人吉駅前広場では、「ノスタルジック人吉」の第十回記念イベントが開催され、二百人を超える方々が百年前を彷彿させる衣装に身を包み、人吉駅を利用する乗客の皆様方におもてなしをされました。

この二つのイベントは、それぞれ日本遺産認定と肥薩線開業百周年に合わせ復活したSL人吉の運行再開を記念して、民間事業者の方々が主体的に始められたものでございます。特に、今回が十回目の開催となりました「ノスタルジック人吉」は、人吉温泉女将の会「さくら会」が中心となり運営をされており、昨年からはJR九州と連携し、人吉駅に到着する列車の中から大正ロマンの雰囲気を楽しんでもらえるよう客室乗務員もハイカラさんの衣装で乗務するなど、回を追うごとに内容も充実し、本市に、にぎわいを与えるだけでなく訪れる観光客にも好評をいただいているところでございます。

今、人口減少・少子高齢化がもたらす地域における様々な課題について、交流人口、関係人口、移住人口と呼ばれる地域外からの人達が、新たな地域づくりの担い手として多様な形で地域と関わることで生まれる相乗効果などが期待されています。この施策は新しい考えであり、本市にとりましても、今後、取り組むべき課題であると存じておりますが、

同時に事業としての進め方、難しさも強く感じているところでもあります。しかしながら、今回、民間の方々自主的、自発的に計画し開催されていますイベント等に参加しますと、本市にある地域資源、観光資源などの魅力を最大限に活用しながら人々を迎え入れ、また、地域住民との温かい交流、触れ合いの場を創り出すなど、人の心を優しく温かく迎える工夫が随所に組み込まれています。

人が癒しや楽しみを求め、どこかに足を運ぶ目的は一つではありませんが、また行きたい、参加したいと思うその最たるものは、地域における人の温かみではないでしょうか。私達が、自らが住む地域の課題に自分の事として向き合い、厳しい環境の中にも共に知恵を出し合いながら、懸命に、楽しく、そして幸せに暮らす姿は、必ずや人々の心に響くはずです。人の心を動かすのもまた人であることを、改めて気付かされた一日でございました。

目標を達成するために継続を旨とすることや小さな努力を積み重ねることによって大きな発展に結び付けていく例えの言葉もありますが、正に私達行政もこのような民間団体の取組に学び、また、連携することで地域活性化に資する取組を推進していかなければならないとの思いを強くいたしましたところでございます。

ただいま御紹介をしましたイベントのほかにも、この時期、本市の秋を彩る様々な住民主導のイベント等が開催されていますが、開催に御尽力いただきました関係者の方々に対し心から感謝を申し上げますとともに、引き続き市政に対し御支援、御協力を賜りますようお願いを申し上げます。

先般、厚生労働省から国民医療費の九八パーセントに相当する平成二十九年度概算医療費が、約四十二兆二千億円と過去最高を更新したとの発表がございました。年金、医療、介護のほか社会福祉、公的扶助などの費用が増大する中、国におきましてこれまでも持続可能な制度としてそれぞれ制度の見直し等がなされていることは、皆様も御承知のことと存じます。安倍首相は、第百九十七回臨時国会における所信表明演説において、我が国を取り巻く解決すべき課題の一つとして、少子高齢化という我が国最大のピンチをまたチャンスに変えることができるとの表現を繰り返しながら、今後三年間で子供から現役世代、お年寄りまで全ての世代が安心できる社会保障制度へ改革を進めていく決意を表明されています。人生百年時代を見据え生涯現役社会を目指した雇用制度など、今後様々な制度の抜本的な改革と合わせ議論が繰り広げられるものと存じますが、市民生活に大きな変化を及ぼすだけではなく、これからの我が国の有り様にも関わる大変重要な改革になるものと推察しており、その動向を注視してまいりたいと存じます。

さて、平成三十年度も折り返しを過ぎ、本年度計画した事業につきましても形にしていく時期であるものと存じておりまして、本年三月市議会定例会におきましてお示しをいたしました市政運営の五つの重点施策につきまして、その概要を述べさせていただきます。

まず攻めの施策として挙げております「しごと創出から始める移住定住促進」でございますが、人吉しごとサポートセンターにつきましては、来月十七日に開所をいたすところ、現在準備を進めております。明日二十七日はその先駆けとして、富士市産業支援センタ

ー長に御協力をいただき、中小企業支援、創業支援をテーマとした「E+P+R」（ヒットビジネス）キックオフミーティング」を開催し、市民の皆様にご事業の概要等を御理解いただくこととされています。開所後の相談予約につきましては既に受付を開始していただき、地元中小企業事業者や創業を志す方々におかれましては、事業を更に発展させるためにも、是非、御相談をいただきたいと思います。

この起業創業・中小企業支援事業につきましては、準備段階で予測し得ない状態に陥り計画に遅れが生じることになりましたが、今回のセンター開設を機に本市としましても心を新たに、センター長、人吉商工会議所等と連携を密にしながら、中小企業事業者をきめ細やかに支援することで地場産業、引いては地域経済の活性化に努めてまいり所存でございます。人吉しごとサポートセンターの開所に際しまして、中小企業関係者をはじめとする市民の皆様方、市議会議員の皆様方におかれましては、引き続き御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

IT関連企業に係るサテライトオフィス誘致活動につきましては、誘致における進出企業との連携調整などについて、今月、本市に本社機能を持つ株式会社システムフォレストとサテライトオフィス誘致等に関する包括協定を締結いたしました。株式会社システムフォレストにおかれましては、クラウドコンサルティングやIoT事業を展開しIT関連事業に幅広い知識と情報を有することから、これらのノウハウやネットワークと本市における資源等と連携を図り、IT企業等の誘致活動だけではなくIoTスマートシティの構築にもつなげてまいりたいと存じます。

移住定住に対する取組としましては、本市の高校生や本市出身者で他の地域に住んでいる若い方を対象として、「しごと」をテーマとした「しごと創出事業」を進めているところでございます。この事業は、二日間の合宿を通して、デザイン思考による事業創出の手順、地方のクラウドファンディングの重要ポイントや少ない資本でも売上を上げるためのマーケティング戦略などを学ぶ内容としております。自ら社長となる起業、あるいは地元の会社への就職、いずれも本市の未来を支える若者の定住やUターンを促す上で欠かせない「しごと」であり、ふるさとに戻って来た若者が再び転出してしまいうようなZターンを防ぐことにもつながるものと存じております。

次に、「活かし、稼ぐための観光戦略」でございますが、現在、日本遺産人吉球磨観光地域づくり協議会におきまして、人吉球磨地域における戦略的な観光ビジョンを策定することとし、郡市に在住する若手事業者によるワーキング会議を開催しております。これまでにないマーケティング手法という新たな考え方を取り入れ、熱心に議論を進めていただいております。マーケティングとは御承知のとおり、地域が持つ強みや長所、ターゲットとする人や地域を明確にし、強い印象を与えるメッセージなどといった総合的な戦略を立てることにより、効果的、効率的に顧客を確保するという考え方でございます。本年度中に意見を集約することとしておりますが、若手事業者の斬新な発想やふるさとを思う情熱が交差する中から、本地域の豊かな資源を十分にいかしたすばらしい将来ビジョンができるものと期待をしております。

また、観光地域づくり事業としましては、観光地域づくりフォーラムやセミナーの開催、相良三十三観音一斉開帳の支援、球磨川温泉郷めぐりの実施、香港・台湾へのセールス活動など郡市が一体となった事業が進められておりまして、県のアドバイスをいただきながら、人吉球磨が一つとなった観光地域づくりが着実に進んでいる状況でございます。

くま川下り株式会社の事業再生でございますが、現在、新・事業再生計画を強力に推し進めるために、上天草市の船舶会社である株式会社シークルーズとくま川下り株式会社との間で業務提携の交渉が進められているところでございます。「球磨川下り」は、この地域の歴史と伝統文化の中から生まれた宝で本市観光の象徴であり、多くの市民の方々の球磨川下りを守り、育て、そして未来に引き継いでいくという願いを受け止め、筆頭株主である本市もこれまで様々に支援を行ってまいりました。今回の業務提携につきましては、懸案でありましたくま川下り株式会社の事業再生に大きく踏み出す、重要な局面にあるものと認識しており、本市としまして、この好機を捉え全力を挙げて支援を行うことを決意いたしましたところでございます。

次に、守りの施策として三つの柱を掲げておりますが、最初に「新市庁舎建設を中心とした安全・安心なまちづくり」につきましては、現在、市庁舎移転建設に向け建設用地及び周辺の整備を開始しております。既に着手している小永野第一雨水幹線改修工事に加え西間別館倉庫解体工事、敷地内の水路付替工事にも取り掛かり、市庁舎建設建築本体工事に向け、敷地内の環境を整えているところでございます。また、建設用地に隣接する球磨地域振興局南側の旧人吉警察署用地につきまして取得が完了しましたことから、西間別館倉庫裏のブロック積擁壁の改修工事にも着手をしています。この工事によりまして約七十台の駐車場を確保するとともに階段を設置するなど、西間別館へのアクセスを容易にすることとしております。西間別館周辺におきまして、市庁舎建設に向けた附帯工事が本格化する中、別館を御利用の皆様並びに周辺住民の方々には、大変御不便と御迷惑をおかけすることになります。御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

防災拠点の整備につきましては、大規模災害発生の際に指定避難所となる第一中学校敷地内にマンホールトイレ敷設工事を実施したほか、同じく避難所としての機能を合わせ持つ東間コミュニティセンターと大畑コミュニティセンターにつきましても、現在、耐震診断を実施しているところでございます。

また、大規模災害発生時におきましては、必要となる救援物資や負傷者等の対応など行政の力だけでは迅速な対応に限界があり、様々な業種、団体等との連携、協力が不可欠でございます。今回、これらの課題につきまして、八月に市内に販売店を持つ株式会社ナフコと、今月にはNPO法人コメリ災害対策センター、熊本県葬祭事業協同組合とそれぞれ災害時における協定を締結いたしました。今回の協定は、いずれも企業、団体から御提案をいただき締結に至ったものであり、大変感謝をいたしております。台風などによる災害の危険性が高い季節は過ぎましたが、地震などいつ発生するか予測がつかない災害への備えにつきましても、怠ることなく、平生の心掛けとして、防災対策を進めてまいる所存でございます。

事前防災行動計画となる球磨川水害タイムラインにつきましては、十一月五日に検討会が開催され、八代河川国道事務所、熊本气象台をはじめとする公的機関と九州電力など民間企業を含む防災関係機関が一同に会し、本年度の球磨川における出水時の防災対応について報告し、検証を行ったところでございます。球磨川水害タイムラインは、本市におきましても平成二十八年度から試行運用を開始しておりまして、毎年、関係機関と検証を重ねながら実効性のある計画として改善を加えてまいりましたが、今回の検討会において来年度から本格運用を開始することを決定し、三年に及ぶ議論を終了いたしました。先を見越した防災対応は、住民への被害を最小限にする有効な方法であり、今後は本市が主体となり関係機関と連携を密にしながら住民の身体、生命を守るため、球磨川水害タイムラインの適切な運用を進めてまいります。

二つ目の「健康寿命日本一の実現」でございますが、「しごと創出」、「活かし、稼ぐ」といったキーワードのもと地域活性化やまちづくりを進める上で最大の資源は「人」であると存じますが、人が自己の力を存分に発揮し活躍するための全ての土台は、「健康」でございます。

市民健診における特定健診の受診率は、平成二十九年度が四二・一パーセントと前年度と比較し、二・三パーセント上昇しております。これまで町内会長嘱託員連合会や健康推進員会の皆様に御協力いただき実施してまいりました戸別訪問による健診の受診勧奨等の効果が、少しずつではありますが形に表れてきているものと存じております。また本年度からの取組としまして、疾病治療中の方々には、人吉市医師会に御協力いただき主治医の御理解を得て、特定健診受診勧奨のお声掛けをしていただいております。

地域における健康づくりにつきましては、毎週土曜日には、毎週土曜日にいずれかの校区でウォーキングが実施されています。各校区の公民館事業として、市民の身近なところで気軽に取り組める運動の機会の提供といった活動の一端を担っていただいております。

また、職場単位での健康への意識付けとして、現在、十二団体と「人吉市笑顔と健康のまちづくり協定」を締結してまいりまして、健診の受診勧奨や啓発をはじめとした健康づくりに御協力をいただいております。

今後も、本市の健康増進計画の理念である「自分の健康は自分で守るまち ひとよし」を実現するために、市民の方々あらゆる形で健康づくりの機会や情報等を提供し、自身の健康状態を正しく知るための市民健診の受診、受診結果に応じた保健指導といった施策を推進してまいります。

介護予防サービスにつきましては、平成十二年度に導入されました介護保険制度におきまして、幾度の改正を重ねる中で、現在、地域のあらゆる資源を総動員し、それぞれが主体的に行動しかつ連携する地域をつくり、高齢者が住み慣れた地域で医療や介護、予防、生活支援等を包括的に提供できる地域包括ケアシステムを構築することとされています。その中で介護予防の役割を担うのが「介護予防・日常生活支援総合事業」でございます。訪問型及び通所型サービスについて三類型のサービス体系を設け、それぞれの身体状況に応じたケアプランに基づきサービスを提供するなど多様化する利用者ニーズに対応してい

るところでございます。

高齢者の地域における生活を支援する「包括的支援事業」につきましては、認知症初期集中支援チームによる重度化防止の取組や退院後の切れ目のないケア提供のための医療と介護の連携の推進、虐待防止及びその対応などに努め、きめ細やかな支援を実施しております。これらの核として事業を推進しておりますのは市高齢者支援課内の地域包括支援センターでございます。今後、より地域の力を結集し地域包括ケアを強力に推進していくために、関係機関の御意見を拝聴しながら体制等の整備について検討する時期にあるものと存じているところでございます。

最後に、「ふるさと人吉を支える人づくり」でございますが、去る十月十九日、昨年度の小中学生に引き続き、中学生による「子ども議会」を開催しました。市内三校の中学校から選ばれた三年生の代表九組十八人が「みんなでつくろう人吉市の未来」をテーマに、本市の将来や身近な問題等について、自ら足を運び状況の把握や調査を行うだけでなく、討論会などの手法により住民の意見を聴取し、様々に分析した数値などの結果をフリップにまとめ、市政に対する質問や政策提言を行いました。本会議場で堂々と質問する子供たちの姿から、子供たちならではの視点によるまちづくりに対する純粋な考えや情熱、そして何より、「ふるさと人吉」をもっと住みよいまちにしたいという熱い思いをうかがい知ることができ、大変うれしく、頼もしく感じたところでございます。今回、子ども議会で提案された様々な意見等をしつかりと受け止め、将来を担う子供たちが、ふるさと人吉を誇りに思えるようなまちづくりに努めることはもちろんのこと、子供たちの秘めている無限の可能性を広げるためにどのように教育環境を充実させていくか、将来の明るい希望とそれに向けた対策という新たな課題にも挑戦してまいりたいと存じます。

続きまして、各部の主な政策等についてお時間をいただき述べさせていただきます。

空き家対策関係でございますが、空き家等対策の推進に関する特別措置法や、人吉市空き家等対策の推進に関する条例の制定を受け、本年七月に人吉市空き家等対策協議会を発足し、人吉市空き家等対策計画の策定に向け、現在、慎重に御審議をいただいているところでございます。今後は、来年一月から二月にかけ、パブリックコメントを実施する予定でございます。住民の皆様や各機関からの御意見を踏まえ、本年度中の策定を目指し、本市の空き家等に関する施策を総合的に推進することにより、市民の生命、身体又は財産の保護及び生活環境の保全を図ってまいりたいと存じます。

防災関係でございますが、去る九月二十三日に球磨工業高校をメイン会場として、人吉市総合防災訓練を実施しました。同校は本市の指定避難所でもありますので、施設の配置や避難所としての活用方法などを再度確認し、同校と連携した避難所運営訓練を行うことができたところでございます。また、グラウンドでは、人吉下球磨消防組合消防本部と人吉医療センターの災害派遣医療チームによる大地震を想定したトリアージ訓練や村山公園では国土交通省の指導のもと本市消防団による水防工法訓練を実施し、関係機関との連携と技術の向上を図ることができたところでございます。さらには、西校区の町内会をはじめ同校の生徒の皆さんにも訓練に参加いただき、防災意識の向上が図られたものと存じま

す。今後も、行政と市民の皆様が一体となった防災対策の推進を図り、安全・安心なまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

総合計画関係でございますが、九月中旬から下旬にかけ、第五次総合計画の検証並びに次期総合計画の策定に資するために市民意識調査を実施しました。調査の内容としましては、本市が進めております教育や文化、健康、産業などの各施策や事業などに関する事項のほか、市政に対する市民の関心度や次期総合計画策定への参画希望についても併せてお聞きをしております。現在、その集計、分析作業を進めております。また、次期総合計画につきましては、計画作成等の準備を行っており、市民意識調査の結果など市民の皆様の御意見等を十分に反映させるための仕組みづくりに努めているところでございます。

川上哲治生誕一〇〇年記念事業関係でございますが、去る十一月十四日に川上哲治生誕一〇〇年記念事業実行委員会の設立総会を開催いたしました。この事業につきましては、行政が事業等を計画するのではなく民間の皆様との自由な発想の中から夢のある事業を計画し主体的に実施していただきたいとの思いから、スポーツ・経済関係団体をはじめ多くの団体に参画をいただいたところでございます。

実行委員会の組織としましては、「推進事業部会」、「スポーツイベント部会」、「記念展示部会」、「情報発信啓発部会」の四つの実働部隊を設け、スポーツイベントや偉業を称え伝える事業又は記念商品の製作などについて検討を行っていただくこととしております。さらには、来年秋からの一年間を川上YEARと位置付け、民間の皆様が主体となった優れたアイデアや行動力による多くの事業を展開していただくことで、郷土の偉人にまつわる新たなにぎわいの創出が期待されるところでございます。本市としましても、本事業の成功に向け、県と連携を図るとともに実行委員会の活動を支援してまいりたいと存じます。

環境関係でございますが、新たな環境衛生対策としまして「災害時協力井戸制度」を設けたところでございます。この制度は、大規模な災害が発生し、上水道の給水が停止した場合に、住民の生活用水の不足が予想されることから、あらかじめ井戸所有者の方々に井戸水の提供をお願いすることで、災害時における生活用水の確保や生活環境を清潔に保ち、伝染病の予防など健康や公衆衛生の維持を目的とするものでございます。今後、井戸所有者の方々に対し、この制度の趣旨説明や協力依頼を行い、協定の締結又は所有者の登録といった手続きを経て、年明け以降には市民の皆様へ周知を行い、この制度の運用を開始する予定といたします。大規模災害発生時における共助の精神に基づくものでございますので、井戸を所有する事業所や市民の方々におかれましては、趣旨を御理解いただき御協力を賜りますようお願い申し上げます。

児童福祉関係でございますが、子育て世代包括支援センターを軸として、妊娠期からの相談対応や個別訪問、また出生後の全戸訪問における発育状況の確認や相談対応、さらには子育てについての情報を提供するなど、子育て世代の不安解消に努めています。また、子育て中の親と子の集いの場である「ほっとステーション九ちゃんクラブ」に子ども・子育て支援員を配置し、子育て支援の情報提供や必要に応じたサービスが利用できるように対応を行っています。子ども医療費完全無料化などを実施し一年が経過しましたが、経済

的な負担の軽減と合わせ、安心といった精神的な部分と、生活面での援助を総合的に、妊娠期から子育て期まで切れ目のない子育て支援を展開することで、安心して子供を産み育てる環境を整えてまいりたいと存じます。

農業振興関係でございますが、去る十一月十日、十一日の両日、秋日和の中、第六十九回ひとよし産業祭が開催されました。市内外から多くのお客様に御来場いただき、実行委員会の皆様をはじめ御協力いただきました市民の皆様から感謝を申し上げます。本年は市民の皆様のお意見を踏まえ、御来場の皆様に巡りやすい配置とするため会場レイアウトを変更されました。今後も、お客様の御意見を取り入れ、収穫の秋にふさわしく、市民の皆様が見て、食べて、触れて、五感で人吉の秋を満喫できる祭りの運営を期待するところでございます。

また、本市との友好都市でもございます静岡県牧之原市からは、商工会会長をはじめ市職員や商工会の方々にもお越しいただき、毎年好評の釜揚げしらすをはじめとする海産物などの販売を通して、本市との交流に努めていただいたところでございます。

稍山工業団地関係でございますが、未売却用地である残り一区画につきましては、先般、森松工業株式会社から購入の申出がございました。同社は、岐阜県に本社を置き、国内に六箇所、海外に二箇所の工場を有し、ステンレス製貯水タンクの製造を主とする上水道事業をはじめ建築設備事業や宇宙・航空事業など国内のみならず世界各国で事業を展開されています。

本市に所在する同社熊本工場につきましては、平成八年に進出いただき、当初は従業員十三人にてスタートされましたが、順調に業務拡大を図られ、現在は地元採用の従業員五十七人で運営されています。同社では、東日本大震災や熊本地震などの度重なる自然災害の経験や、南海トラフを震源とする巨大地震の想定などを踏まえ、災害時の迅速な対応、リスクの分散化や十分な資材等の確保を図るとともに、九州南部における生産拠点として熊本工場の拡張も視野に、隣接する区画の取得を希望されたもので、今回の事業拡大に伴い、新規雇用も見込まれています。今や、本地域産業の核の一つでもある同社がますます飛躍し、より多くの従業員を地元から雇用され、本地域の発展に貢献されますことを切に願っているところでございます。

都市計画関係でございますが、街並みや市民生活が調和したまちづくりを進める上で、良好な景観の形成・保全といった対策が必要であると強く認識しております。本市に点在する歴史と伝統文化、恵まれた自然などの地域資源に対し、市民の皆様が誇りや愛着を持ち、地域の活性化とともにまちの魅力を高めながら市民の幸福向上を実現していくためにも、今後、景観行政団体への移行や景観計画の策定につきまして推進してまいりたいと存じます。

石野公園における道の駅整備関係でございますが、現在、国及び県と協議を重ね、登録申請に向けた基本計画の策定を進めております。また、十月にはトイレ改修工事の設計業務を終え、正面駐車場横のトイレ改修工事に着手したところでございます。引き続き、公園施設長寿命化対策支援事業により園内環境を整え、来年秋に予定されています人吉球磨

スマートインターチェンジの開通に合わせた道の駅への登録を目指してまいりたいと存じます。

なお、道の駅登録名称につきましては、「道の駅人吉」で申請を行います。公園の名称におきましては、開園以来多くの皆様に親しまれている「人吉クラフトパーク石野公園」を今後も継続して使用してまいります。

社会教育関係でございますが、小学校運動部活動の社会体育移行につきましては、来年度からの本格移行に向けて、今年十三日から各小学校で試行を開始したところでございます。参加している子供たちは、学校のグラウンドや体育館において、コーディネーターと指導者による計画のもと、楽しく総合的な運動の体験を行っているところでございます。今後、今回の試行をもとに保護者の皆様などから御意見を伺いながら、検討委員会の皆様と共に、本市の子供たちの体力づくりの一翼を担えるよう努めてまいりたいと存じます。

今年十日、十一日の両日、本市において「元氣 熊本 スポーツ推進委員とともに」をテーマに、第五十七回熊本県スポーツ推進委員研修会人吉市大会が開催されました。県下各地から四百七十人を超えるスポーツ推進委員の皆様が参加をされ、推進委員の資質の向上と相互の親睦を深められたことと存じます。本大会では、総合型地域スポーツクラブである「カルヴァーリョ・ラッソ人吉」が、長年にわたりスポーツの普及と振興に努められていることに対し、熊本県生涯スポーツ優良団体表彰を受賞されたところでございます。カルヴァーリョ・ラッソ人吉の皆様におかれましては、心からお祝い申し上げます。

文化振興事業関係でございますが、本年度も十月から今月にかけて人吉球磨総合美術展、犬童球溪顕彰音楽祭を開催いたしました。また、人吉文化協会主催により人吉文化祭も開催されたところでございます。いずれも長年の伝統を誇り、レベルの高い美術工芸作品の展示や趣向を凝らした舞台発表、演奏が披露され、多くの市民の皆様に芸術の秋を十分に堪能いただいたものと存じます。開催に御尽力いただきました人吉文化協会や人吉美術協会など文化団体の皆様をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げます。本市としても、引き続き、地域の文化の振興と普及、文化団体の活動支援に努め、文化の香り高いまちづくりに取り組んでまいりたいと存じます。

人吉城歴史館関係でございますが、NHK大河ドラマ「西郷どん」と呼応すべく「西南戦争と人吉」と題しまして、来月十六日まで企画展を開催しております。この企画展では、明治百五十年の節目に当たり、西南戦争を軸として、その前後の資料をもとに、様々な観点から当時の人吉球磨の歴史を伝えることとしています。日本が近代化に踏み出す激動の時代にあつて相良氏統治の終えんを迎え、藩主はそれをどのように受け止め、そして人吉球磨に住む人々は時代の変化にどう向き合ったのか、また、それをどう乗り越えたのか、先人たちの当時の苦悩を振り返り、この地域のアイデンティティーを見つめ直す契機になることを期待しております。

図書館関係でございますが、去る十月二十日、嘉島町において、第五十七回熊本県児童発表大会が開催されました。人吉球磨の代表として人吉西小学校六年生の菱崎春香さんが出場し、読み手の心象風景までも、聞き手の心の中に心地よく染み込むようなすばらしい

発表で、見事、熊本県立図書館長賞を受賞されました。夏休み前から長期間練習に打ち込まれた御本人はもとより、保護者並びに御指導いただきました先生方に対しまして、心からお祝いを申し上げたいと存じます。

次に、平成三十一年度予算編成に向け、その方針を定めましたので御報告申し上げます。平成三十一年度の国の予算編成にあたっては、六月十五日に「経済財政運営と改革の基本方針二〇一八」が閣議決定され、「経済再生なくして財政健全化なし」の方針のもと、少子高齢化という最大の壁に立ち向かい、持続可能な経済成長を実現していくため、人づくり革命及び生産性革命を実現・拡大し、潜在成長率の引上げを進めるとともに、成長と配分による経済の好循環拡大を目指すこととしております。

また、県は、平成三十年当初予算の編成方針において、平成二十八年熊本地震の復旧・復興には長い時間と財源が必要であり、本年八月に公表した「中期的な財政収支の試算」においては、平成三十一年度から五年間、各年度十九億円から九十五億円の財源不足が生じることが見込まれ、復旧・復興を着実に推進していくためにも、真に必要な事業への選択と集中や効率的な予算執行を普段の取組としていかなければならないとしております。

本市においては、平成三十一年度は、第五次人吉市総合計画後期基本計画の最終年度であり、計画に掲げるまちづくりの理念「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち」の最大限の実現に向け、各施策総仕上げとして取り組む重要な年度と捉えております。

しかしながら、日本全体で進んでいる少子高齢化などの社会問題を背景として、本市の財政も非常に厳しい状況にあり、現在実施している全ての事業を来年度以降も継続しながら、新たな事業に着手・推進していくことは大変困難な状況にあると存じます。

特に、新市庁舎建設につきましては、国から有利な財政措置が講じられることとなったものの、起債償還の増加は避けられない状況にあり、そのためにも今後、新市庁舎建設のための地方債償還ピーク期前までに既存事業の検証を行い、見直しを含めた財政負担の軽減を図っていく必要があるものと存じます。

以上のことから、平成三十一年度予算編成にあたっては、国の予算編成や支援の動向を見極めつつ、行政需要の多様化・複雑化へ対応できるよう関係部局間で十分な協議・調整を図り、組織横断的な連携による効果的な施策展開となるよう取り組まなければならないものと存じております。なお、来年四月は任期満了に伴う市長改選期でもございますので、平成三十一年度当初予算は骨格予算とし、新規の政策的経費については補正予算にて検討を行うものでございます。

議員各位をはじめ市民の皆様におかれましても、この趣旨を御理解いただき、今後の改革改善に特段の御協力、御協賛を賜りますようお願い申し上げます。